NO.02

# 働きすぎ黒書　ニュース

全日本教職員組合（全教）生権局
2006 年 6 月 16 日
東京都千代田区二番町 12-1　３Ｆ

## 長時間・過密労働の解消を！

全国の働きかたの実態を紹介しています。
今回は両親を心配する悲痛な声を掲載させていただきます。

### あたりまえの生活を

母は夜１０時を過ぎないと帰ってきません。私は受験生なので帰宅が九時を過ぎる日も多く、その時間は父も帰っていないので、家の鍵をあけたらまず電気をつけて、米を磨ぎます。夕食は１１時になります。夕食の後、両親は深夜２時ごろまで仕事をします。

父と母が教師であることで、例えば両親が自宅にいる時間が少なかったり参観日や体育祭等に来たことがなかったりということで、悲しいと思ったことはありません。二人は良い相談相手です。私は両親に誇りを持っています。

けれど最近の二人を見ていると、いつ倒れるのだろうかと不安になります。明日にでも死んでしまうかもしれないなと思ったことは一度や二度ではありません。それくらい二人とも疲れています。話題が学校のことでなくても、話す言葉と内容で分かるのです。それを分かっていながら黙って聴いているのがとても辛いです。

両親は休日にも仕事をします。特に母は学校に行かない日が一ヶ月に二・三日しかありません。帰ってきたと思ったら、電話で保護者の対応をしています。子供に問題が起これば夜遅くでも車を走らせて解決に、時には謝罪に行きます。

ちょっとでも助けようと、仕事の応援をすることもあります。同じく教師を母に持つ友人の家ではもう一緒に夕食を食べるという習慣を無くしたそうです。

私自身は勿論、教師ではないので、学校の社会的状況などは分かりません。でも、両親が家庭で仕事と家事以外のことをしているところを見る機会があまりにも少ないので、二人が、そんな生活を止めることが出来るようになるために、この文を書かせていただくことにしました。

～広島より～

**家族からの告発など、実態をぜひお寄せください！**